

# 日本ウマ科学会 2024年度 第1回常任理事会議事録

日 時：2023年11月8日（水）13：00～

場 所：日本装蹄協会（JRA 新橋分館 4階会議室）

出席者：笠嶋 快周 副会長  
山中 隆史 庶務担当常任理事  
半澤 恵 会計担当常任理事  
楠瀬 良 編集担当常任理事  
近藤 高志 学術担当常任理事  
桑原 正貴 国際担当常任理事  
平賀 敦 広報担当常任理事  
佐々木 直樹 臨床担当常任理事  
高橋 敏之 ICEEP12 国際委員（開催組織委員会 副会長）  
福田 健太郎 事務局長

欠席者：青木 修 会長  
田谷 一善 副会長

議 題：

1. 開 会・・・・・・・・・・・・・・・・・・山中 常任理事
2. 挨拶・議事進行・・・・・・・・・・笠嶋 副会長
3. 2024年度 理事会・評議員会・定時総会について・・・・・・・・山中 常任理事
  - ① 2023年度 事業報告（案）ならびに収支決算（案）・・・事務局
  - ② 監事監査報告・・・・・・・・・・半澤 常任理事
  - ③ 2024年度 事業計画（案）ならびに収支予算（案）・・・事務局
4. 役員改選について・・・・・・・・・・山中 常任理事
5. その他

議事概要：

## 議題 2. 挨拶・議事進行

- はじめに今回の常任理事会では青木会長が病氣療養のため、田谷副会長が急の用件により出席がかなわなくなったため、笠嶋副会長が議長を務めることが承認された。

## 議題 3. 2024 年度 理事会・評議員会・定時総会について

### ① 2023 年度 事業報告（案）ならびに収支決算（案）

#### I. 事業報告（案）

- 会員数は 15 名増。
- 学会賞を佐藤文夫会員、奨励賞を溝部文彬会員に授与。
- 表彰者選考委員会において、奨励賞に帝京科学大学のリングホーファー萌奈美会員が選考され、臨時の理事会により承認された。
- 第 35 回学術集会において、最優秀発表賞 1 題および優秀発表賞 4 題を表彰した。
- JES 4 号および Hippophile 4 号を発刊配布した。
- 第 35 回学術集会は昨年 11 月に KFC Hall & Rooms で開催された。一般会員 243 名を含む 331 名の参加者を集めた。
- 臨床委員会招待講演およびシンポジウムについては、関係者のコロナウイルス感染症罹患のため対面形式を中止し、後日オンデマンド WEB 配信を 1 月から 3 月末まで行った。
- 企業展示には 11 社に協賛頂いた。展示会場では伯楽会による絵画展示も行われた。
- 海外渡航支援事業には後期に 2 件の応募があり採択された。
- ホームページのサーバーの安定性を強化した。
- 第 12 回国際馬運動生理会議（ICEEP12）の 2026 年国内開催に向け、開催組織委員会およびワーキンググループを発足させた。

以上の件について、一同承認。

#### II. 収支決算（案）

##### 1. 収入の部

- 会費収入は前年並み。
- 想定を上回る学会参加人数により参加費収入が回復。
- 企業展示収入もコロナ前の水準に。
- 雑収入には、中止されたシンポジウム参加者の旅費返金が含まれている。

##### 2. 支出の部

- 刊行雑誌のページ数増および物価上昇により印刷製本費が増加。
- ICEEP12 関連の支出として、国際学会対応費が発生。内容は銀行口座開設関係。
- 臨床委員会事業費支出の講師交通費の執行が著しく少ないのは、第 36 回学術集会の講師が自己資金で航空券を調達したため。海外送金は不可能なので、来日後に現金を支払うことになる。
- 監事監査前に、現在の予算執行に着目した貸借対照表形式の決算は収支がわかりにくいとの指摘を受けたため、本年度より損益計算書を作成した。一般会計は 102 万円ほどの黒字である。これは学会が再び対面式で開催されたことが大きく寄与している。

#### 認定馬臨床獣医師制度会計

- 本年度の収支は 9 万円弱の赤字。

決算について、一同承認。

#### ② 監事監査報告

- 午前中に行われた監査では特に大きな指摘事項はなく、適正な運営が行われているものと認定された。

#### ③ 2024 年度 事業計画（案）ならびに収支予算（案）

##### Ⅲ. 事業計画（案）

- 第 36 回学術集会では奨励賞をリングホーファー萌奈美会員に授与する予定。
- 新版ウマ用語集を刊行し、既存会員の希望者および新規会員に配布予定。
- 本年の学術集会に一般非会員で参加した者の希望者全員を本年度年会費なしの会員とし、入会特典を付与する。
- 学術集会の特別講演では、BEVA 会長であるロンドン王立獣医大学の Roger Smith 博士の講演を、臨床委員会企画招待講演では米国 Chi University の Huisheng Xie 博士の講演を行う。
- 認定馬臨床獣医師関係では、本年度も例年通り認定試験を実施し、さらに今年度に 5 年の更新期限を迎える者の更新手続きを行う。
- ICEEP12 の開催に向けて、引き続き開催組織委員会およびワーキンググループとして活動を行う。

以上のことについて、一同承認。

##### Ⅳ. 収支予算（案）

## 1. 収入の部

- 正会員会費収入は、現国内会員数の約 95%である 837 名×5,000 円＋海外会員 1 名（7,000 円）で算出。
- 学術集会参加費収入は、10 月 31 日現在の登録者数 178 名の 1.1 倍の会員参加（196 名）があると想定。
- 企業展示収入はコロナ前より多くの企業が参加するとの想定。
- 著者負担金収入は、別刷り料金の請求をやめる計画（後述）のため減額。

## 2. 支出の部

- 現職の事務担当従事員が退職予定のため、新任の従事員を 10 月から 1 名追加雇用。このため 11 月から 3 月まで人件費増が見込まれる。
- 新ウマ用語集を 1,000 部刊行予定のため印刷製本費を増額。
- 学会参加の一般非会員に会員特典（学術誌の配布）を付与するため、印刷製本費と通信運搬費を増額。
- 前年度に学術集会の外国人講師の旅費が計上できなかったため、未払い分の学術集会事業費の講師交通費と臨床委員会事業費の講師交通費を増額。
- 表彰対象者が前年度よりも減るため、褒賞副賞費を減額。
- ICEEP12 のロゴ作成費として、国際事業費の国際学会対応費を計上。

## 認定馬臨床獣医師制度会計

- 5 年ごとの更新作業が始まるため、収入の部に更新料収入の科目を新設。
- 受検料収入はこれまでの実績を鑑み、6 名受験×15,000 円で想定。
- 更新料収入は更新対象者 103 名の 7 割が更新すると想定。
- 更新事務作業が増えることから、事業管理費は増額。

各予算案について一同承認。

## 議題 4. 役員改選について

- 本年度は役員改選の年。
- 伊藤克己評議員が退任。草薙氏に代わって乙訓 日生研(株)取締役を評議員とする。
- 学術委員会委員であった関氏に代わって、村瀬 JRA 生産育成研究室長を新委員とする。

新人事案について、一同承認。

## 議題 5. その他

◇ ICEEP12 関連進捗状況報告

(高橋 ICEEP 国際委員が参加)

- 開催は 2026/10/26～10/30。
- 開催会場は都市センターホテル。現在仮予約中で、正式予約は 2023 年末までに必要。
- 開催スケジュールについては、中日に東京観光ツアーを含めたレクリエーションを計画。会期前後の土日に東京競馬観戦あるいは馬事公苑見学ツアーを計画中。
- 物価上昇の影響も含め、あらためて詳細な見積もりを作成する予定。
- ウマ科学会の 2024 年度予算が承認された後すぐに ICEEP12 の大会ロゴの作成に取り掛かり、最終案を開催組織委員会会長に承認していただく予定。
- 2025-26 年の 2 年間 JRA から助成を受けるための予算案を作成中。

◇ 認定馬臨床獣医師制度 免許更新作業進捗報告

- 既に申請書は対象者に送付済み。12 月中に申請を受け、更新料を納付していただく予定。
- 将来の制度展開としての「専門医制度」について議論が交わされた。笠嶋副会長や山中庶務担当からは「専門医制度の策定にあたっては、現行認定医の更新者数の推移や専門医制度に対するニーズと、その新設に係る労力等とのバランスに基づいて、常任理事会の場で議論の上、しかるべき方向性を検討すべき」との意見があり、まずは認定医制度 5 年の総括を適切に行うことが先決であると合意された。

◇ Journal of Equine Science の別刷り料金請求について

- 現在、JES の別刷りについては、部数やページ数に従って依頼者から一定の金額を徴収している。しかしこの金額は実際にかかる経費に比べてかなり高額であり、利益を伴う事業として税金を課される可能性がある。
- インボイス制度開始で請求先からは日本ウマ科学会の請求書に注文がつくケースがある（特に業者番号の問題）。本学会は免税業者であるが、証明を求められることがある。
- 依頼者と印刷業者の間の直接取引にしていただければこれらの問題が解決される。日本ウマ科学会はこの中継ぎのみを行う。
- さらに投稿規定には「規定ページ超過に伴う手数料」を著者に求めているが、この制度は抑止力として残す。

以上のことにより、JES 別刷り料金は印刷業者の実費請求のみとする方針を一同承認。

(14:40 終了)